

第4学年 道徳学習指導案

い組 男子19名 女子20名 計39名
指導者 福留 忠洋

1 主題名 まごころをもって

2-(1) 礼儀の大切さを知り、だれに対しても真心をもって接する。

2 主題について

(1) 主題の位置とねらい

この期の子どもたちは、これまでに、校外での学習や学校や家庭での生活の中であいさつをすることの大切さやあいさつをすることでよりよい人間関係が築いていけることを理解し、明るく誰にでもあいさつをしようと努力してきている。しかし、あいさつの大切さを理解しているにもかかわらず、自分とのかかわりの程度や恥ずかしさによって、心を込めたあいさつができなかったり、礼儀正しく接することができなかったりする場合もある。このようなことから、この期の子どもたちに、礼儀正しく接することが相手にどのような心を伝えるのかということやそのことのよさに気付かせ、誰に対しても心を込めて接していこうとする態度を育てる必要がある。

本主題では、誰に対しても礼儀正しく接することができない場面で生じる心情や心情の変化を、自らの体験場面での内面と関係付けて類推しながら追究する活動を通して、礼儀正しく接することと内面の心情とのかかわりを理解し、心のこもった礼儀作法を大切にして、誰に対しても礼儀正しく接したいという気持ちを大切にしようとする心情を育てることをねらいとしている。さらには、礼儀の大切さを知り、誰に対しても礼儀正しく接していこうとする生き方は、お互いを思いやり、よりよい人間関係を築いていくことに繋がるといことよさを実感し、これからの生活に生かしていこうとする意欲を高めていくこともねらいとしている。

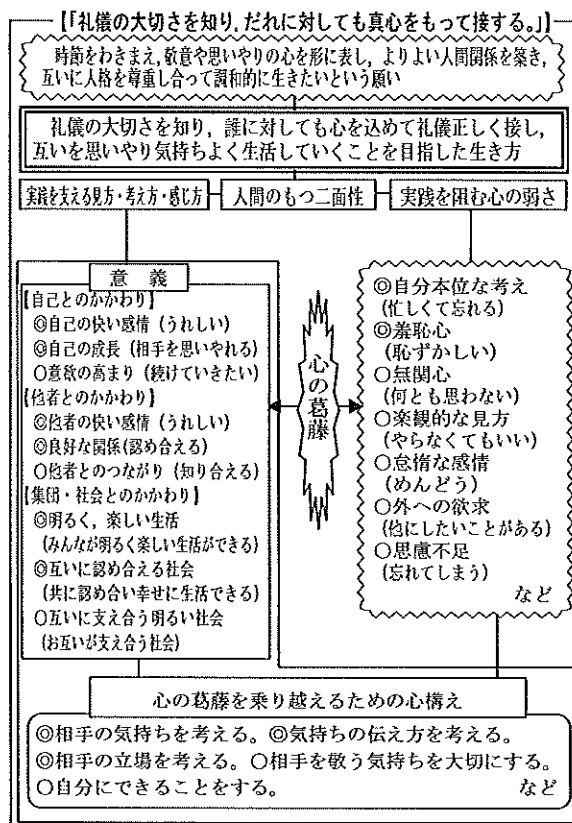
このような学習を通して身に付けた見方・考え方・感じ方は、時と場をわきまえて、礼儀正しく真心をもって接する生き方を深く追究していく学習へと発展していく。

(2) 指導の基本的な立場

礼儀の大切さを知り、だれに対しても真心をもって接することについて、人間のもつ二面性に着目して人間理解を深めるとい立場から分析すると右の図のようになる。

礼儀の大切さを知り、誰に対しても真心をもって接するためには、自分本位な考えや羞恥心などの心の弱さを乗り越えて、礼儀の大切さを理解し、誰に対しても礼儀正しく接しようとする意欲や態度が求められる。それらを支えるものが「うれしい」「相手を思いやることができる」「明るく、楽しい生活ができる」「認め合える」といった意義であり、「相手の気持ちを考える」「気持ちの伝え方を考える」「相手の立場を考える」といった心構えであると考えることができる。

ここでは、時節をわきまえて、敬意や思いやりの心を形に表し、よりよい人間関係を築き、互いに人格を尊重し合って調和的に生きたいという願いの基に、礼儀の大切さを知り、誰に対しても心を込めて礼儀正しく接し、互いを思いやり気持ちよく生活していくことを目指した生き方とし、その実践を支え



る見方・考え方・感じ方（意義や心構え）と実践を阻む心の弱さの両面から、人間理解を深めていくことになる。

具体的には、礼儀の大切さに気付き、誰に対しても心を込めたあいさつをすることで、自他共に快い感情になることや互いに友好的な関係が深まることを理解させる。その一方で、心を込めて礼儀正しく接していきたいと思いつつも、自分本位な考えや羞恥心などの心の弱さからなかなか実践できないことがあることにも気付かせる。そして、それらの弱さと望ましい生き方との間に起こる心の葛藤を乗り越えていくためには、相手の気持ちを考える、気持ちの伝え方を考える、相手の立場を考えるなどの心構えが大切であることも理解させる。

このような内容にかかわる生き方への共感を高めるために、本主題では読み物資料「春の星」（学研教育みらい）を取り上げることにした。この資料は次のような粗筋である。

まだ寒い春の夜に、主人公がタクシー乗り場で並んで待っている時、一人の女性が「星がきれいですね。」との一言により、並んで待っている人たちは星を見ることを通して心を共有する。その後、女性は「お先に。」と声をかけてその場を去って行く。その言葉は、次々に引き継がれタクシーを待つ人々の心を和ませていくという粗筋である。

この資料を扱うに際し、話の内容の理解を深め、主人公の心情に十分に触れさせるために、録音CDや一枚絵を活用する。また、子どもたちの生活場面を振り返らせながら関係付けて類推させるようにし、主人公の心情や心情の変化に自我関与させる。

具体的には、まず資料の一読後の感想から、主人公が「お先に。」と言われてうれしく感じる場面での意義について実際の生活場面での体験を想起させ関係付けたり、寒い春の夜にタクシーを待っている場面での心の弱さについて共感的に追究させたりする。次に、主人公が「お先に。」と同じ言葉を言った時の心情やその背景について追究させる。その際、自らの生活場面と関係付けて考えさせたり、書く活動や対話活動を通して重点的に考えさせたりする。また、重点とする意義や心構えについて深めたり広げたりするために、思考を促す発問を効果的に行う。さらに、授業の中で感じたことを今までの自分の生活と比較させて考えさせてまとめることを通して、生活場面での意欲や態度を高めるようにする。

このような過程を重視する学習を通して得られる能力や態度は、礼儀の大切さを知り、誰に対しても心を込めて礼儀正しく接し、互いを思いやり気持ちよく生活していくこと目指す生き方をする意欲につながるものであると考える。

(3) 子どもの実態

本学級の子どもたちの礼儀の大切さを知り、だれに対しても真心をもって接することにかかわる経験や、実践を阻む心の弱さ、実践を支える見方・考え方・感じ方（意義・心構え）等についての認識は以下の通りである。

〔表1〕 礼儀正しく行動できた対象（総反応数44）とその時の感情（総反応数42）

経験場面	反応数(人)	その時の感情	反応数(人)
先生	10	うれしくなる	15
習い事の先生	10	感謝の気持ちを伝えたい	8
近所の人	8	すっきりする	8
友達	6	続けていこう	6
家族	5	やってよかった	5
運転手	5		

〔表2〕 礼儀正しく行動できない時の心情（総反応数44）

心の弱さ	反応数(人)	心の弱さ	反応数(人)
自分本位な考え（忙しくて忘れる）	15	楽観的な考え（やらなくてもいい）	3
羞恥心（恥ずかしい）	3	怠惰な感情（めんどろ）	9
無関心（何とも思わない）	4	思慮不足（気にしない）	6
外への欲求（外にしたいことがある）	4		

[表3] 実践を支える見方・考え方・感じ方（意義・心構え）についての認識 総反応数（92）

見方・考え方・感じ方		反応数(人)	見方・考え方・感じ方		反応数(人)	見方・考え方・感じ方		反応数(人)
対 自 己	うれしくなる	15	対 他 者	相手が喜ぶ	18	対 集 団 ・ 社 会	明るく、楽しい生活ができる。	10
	やる気がでる	6		よい関係になる	8		みんなを大切にできる	9
	ほめてもらえる	3		相手も礼儀を正しくなる	5		みんなが信頼される	8
	やさしくなれる	2		なかよくなる	2		みんなを助け合える	6

[表1] から、礼儀正しく行動することについて、「感謝の気持ちを伝えたい」や「うれしくなる」などの感情を抱いている児童が多いことが分かる。また、その対象としては、学校生活だけに限らず、習い事の先生や近所の人など普段の生活場面での出会う人にも向けられている。このことは、礼儀を表す対象が広がっていることを示しているが、それらを支える心情面については、「うれしい」「すっきりする」などの自己の喜びにつながる内容が多いことから、相手を敬ったり、思いやりたりする心情が伴っていないことも示している。しかし、礼儀正しく行動することに対して[表2] から分かるように「忙しくて忘れる」、「めんどくさい」、「他にしたいことがある」といった感情から、誰に対しても心を込めて礼儀正しく行動できないことがあることに気付いていることも分かる。さらに、[表3] から礼儀正しく行動することについては、「うれしくなる」「やる気がでる」といった意義や心構えについて感じている子も見られる。また、「相手が喜ぶ」「明るく、楽しい生活ができる」など他者や集団・社会に対して意義や心構えを感じている子どもも見られる。

これらの実態から、自分のこれまでの生き方とのかかわりを意識しながら追究できるように、「相手の気持ちを考える」「気持ちの伝え方を考える」「相手の立場を考える。」という心構え等について重点的に扱ったり、生活場面との関連を図ったりする必要がある。

一方、道徳の時間においては、本学級の子どもたちは、登場人物の心情や心情の変化について積極的に考えを公表するが、道徳的価値に対する見方・考え方・感じ方について根拠をもって深めたり、広げたりするところまでは至っていない。そこで、様々な見方等を促す問いかけを行ったり、具体的な生活場面を想起させ根拠を明確にさせて考えさせたりしながら、多様な見方・考え方・感じ方に触れさせることを通して、学んだことと自分の生き方とのかかわりを意識させながら追究するような働きかけを具体化していく。

(4) 指導上の留意点

本主題の指導を展開するにあたっては、礼儀の大切さを知り、誰に対しても真心をもって接しようとする生き方のよさの実感を深める中で、子どもたちがこれまでの様々な体験で感じてきた道徳的価値にかかわる意識が、これからの生き方へと連続し、発展していくようにしたい。

ア この内容にかかわる生き方についての切実な問題意識をもたせるために、これまでの体験場面を想起させ、礼儀正しくすることのよさとできなかった時の気持ちを対比させ、その矛盾から子ども一人一人が考えていきたい問題を設定させるようにする。

イ 主人公の心情や心情の変化に共感させ、ここでの意義・心構えへの見方・考え方・感じ方について根拠をもって深めたり広げたりできるように次のような働きかけを行う。

まず、主人公がタクシーを待っている場面で「お先に。」と言われ、うれしくなってきた場面に焦点化し、普段の生活場面を具体的に想起させてから主人公の心情との共通点を探り、ねらいとする意義について深めたり広げたりする。次に、主人公が「お先に。」と同じあいさつをした場面に焦点化し、主人公の行動の背景にある見方・考え方・感じ方について深め広げさせるために、書く活動や対話活動を通して考えさせる。その際、重点とする意義や心構えに迫るために、表出した考えを関係付けさせて根拠を明確にさせたり、『「お先に。」の一言があるのとないのでは違うのか」と重点とする意義等に迫らせる思考を促すための発問を行ったりする。

ウ この内容にかかわる自己の生き方についての考えを深め、これからの生活の中で生かしていこうとする意欲を高めるために、主人公の生き方や設定させた学習問題を基に自分の生き方を振り返らせる。その際、書く活動を取り入れ、自分のこれからの生き方について具体的にイメージをもつことができる場を設定する。

3 本 時

(1) ねらい

- ア 礼儀の大切さを知り、だれに対しても真心をもって接することにかかわる自分自身の生き方を見つめ、自分自身のもつ心の葛藤を乗り越えて、礼儀正しく、誰に対しても心を込めて接しようとする気持ちを高めることができる。
- イ 礼儀の大切さを知り、だれに対しても真心をもって接することにかかわる見方・考え方・感じ方を自らの体験場面での内面と関係付けて類推しながら考え、表現することができる。
- ウ 自己中心的な考えや羞恥心、無関心などの心の弱さから、誰に対しても心を込めて接することができないことに気付くとともに、礼儀正しく誰に対しても心を込めて行動することの意義や心構えの大切さを理解することができる。

(2) 本時の展開に当たって

子ども自らが道徳的価値観を再構成していくために、表出した多様な見方・考え方・感じ方からねらいとする重点に迫らせるために対話活動を行う。その際、表出した多様な見方・考え方・感じ方を踏まえて自分なりの道徳的価値観を深めたり広げたりできるような問いかけを効果的に行うようにする。

(3) 実 際

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
気付く	<p>1 礼儀正しく行動できた経験とできなかった時の気持ちについて考える。</p> <p> ↔ </p> <p>だれに対しても礼儀正しくするためにはどんな気持ちが大切だろう。</p>	(分) 7	<ul style="list-style-type: none"> ○ 切実な問題意識をもたせるために、これまでの生活の中で感じている礼儀正しくできた経験とできない時の気持ちを対比させ、それらの矛盾から問題意識をもたせる。
さぐる	<p>2 資料「春の星」を読み、考えていきたい問題について話し合う。</p> <p>(1) 主人公の言動や心情、心情の変化について感想をもち、発表する。</p> <p>(2) 主人公が「お先に。」とあいさつした意義や心構えについて話し合う。</p> <p></p> <p>【意義】 うれしい→相手を思いやれる→認め合える→お互いを大切にできる→共に幸せに生活できる</p> <p>【心構え】 相手の気持ちを考える、気持ちの伝え方を考える、相手の立場を考える、相手を敬う気持ちを大切に、自分ができることをする など</p>	10	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料をより共感的に読み取らせるために、録音CDや場面絵を効果的に活用したり、寒い中タクシーを待つ状況について補足説明を行ったりする。 ○ 主人公の心情や心情の変化への共感を高めるために資料一読後の感想から、「お先に。」と主人公が同じ言葉を使った場面に焦点化する。 ◎ 『「お先に。」と言われたらどんな気持ちになっただろう。』 ○ 主人公が感じた意義について多様な見方・考え方・感じ方を引き出すために、「お先に。」と言われた心情について考えさせる。その際、子ども自らの生活場面と関連付けさせたり、タクシーを待たされている時の心情と対比させて考えさせたりしながら、重点とする指導内容にかかわる意義について深めたり広げたりするようにする。 ◎ 『「お先に。」と同じように言ったのはどんな気持ちを大切にしたらからだろう。』 ○ 重点とする指導内容にかかわる心構えに対する見方・考え方・感じ方を深めたり広げたりするために、「お先に。」と自分の番の時に言った気持ちについて考えさせる。その際、話し合いシートを基に対話活動を行い、共通点や差異点を明確にできるようにする。また、『「お先に。」の一言があるとないとどうちがうのか』などの問いかけを効果的に行い、その背景や根拠について深めたり広げたりできるようにする。
見つける	<p>(3) 主人公の生き方を振り返り、自分と友達のことを比べて、感じたことや考えたことを発表し合う。</p> <p></p>	17	
深める	<p>3 学習したことを振り返り、どんな気持ちや考えをもつことが大切か、自分なりの考えをまとめる。</p> <p></p>	8	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学んだことを自分の生活の中のかかわりの中で考えさせるようにするために、学習の振り返りを通して、自分の考えをまとめ、発表させる。その際、学習した道徳的価値について、自分がこれからの生活の中で大切にしたい気持ちやどのような生活の場面で生かそうか、生かすことを阻みそうな自分の弱さは何かといった視点で考えさせ、まとめさせる。
見通す	<p>4 礼儀の大切さを知り、だれに対しても真心をもって接することについて教師の説話を聞く。</p>	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 礼儀の大切さを知り、だれに対しても真心をもって接することにかかわる説話を聞き、これからの自分の生活に生かしたいという意欲を高めさせる。